

令和5年度（2023年度）「木育マイスター」育成研修等委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

● 事業概要	2
● 事業スケジュール	3
● プログラムの作成	
プログラム作成	5
研修日程の設定	5
現地情報の収集	9
受講生の募集と選定方法	10
● 木育マイスター育成研修の実施	
【A 日程】	
第1回目	10
第2回目	12
【B 日程】	
第1回目	15
第2回目	18
● OJTの実施	21
● フォローアップ研修の実施	26
● 木育マイスターミーティングの実施	28
● まとめ	29
● 添付資料	
①OJT 自己評価シート	
②アンケート集計	
③木育マイスターミーティング議事録	



## ●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、道内各地域で指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは 6 つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

今年度から育成研修の受講生を増やし、2つの日程で研修を行った。A日程は胆振地区を会場とし、7月2日・3日（1回目）と9月3日・4日（2回目）に、B日程は上川地区を会場に9月9日・10日（1回目）と10月28日・29日（2回目）に実施した。OJTは、A日程は7月4日～9月2日の期間、B日程は9月11日～10月27日の期間で行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道から認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。令和5年度は第14期生として46名の木育マイスターが誕生した。

また、北海道知事が認定した「木育マイスター」を対象に、今後の活動を後押しすることを目的としたフォローアップ研修を、日高地区平取町にて開催した。

フォローアップ研修では、ゲストスピーカーをお招きした講話とワークショップ、またフィールドワークや課題の共有など、新たな活動につながるための話題提供と個別相談・指導などを実施し、参加者の今後の活動が円滑に進むよう、アドバイスおよび問題点・改善点の指導を行った。

また、令和5年度からの取り組みとして、木育マイスターの情報交換及びネットワーク化促進のため木育マイスターミーティングを9月、11月、2月の3回にわたり開催した。全道各地で精力的に活動している木育マイスターを構成員として話し合い、木育活動における課題の抽出と共有を図り、マイスターの要望の把握など課題解決に向けた話し合いを行った。



## ■本事業における業務

### 1. 木育マイスター育成研修

#### 1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体へ広報を行った。また、ホームページや SNS などでも広く一般からも参加者を募った。

#### 2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行った。A 日程、B 日程ともに第 1 回目と第 2 回目の 2 回に分けて研修会を行った。

#### 3)O J T 研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するための O J T を実施した。

### 2. 木育マイスターフォローアップ研修

#### 1)受講者の募集

木育マイスターメーリングリストから開催案内を送信するとともに、既認定者へチラシを郵送した。また、ホームページ、SNS 等により周知を行った。

#### 2)研修会の開催

今後の活動に役立つ実践的な内容に加え、事例発表を盛り込んだカリキュラム設定を行った。

### 3. 木育マイスターミーティング

#### 1)構成員の選定

地区支部のメンバーと各分野で精力的に活動されている木育マイスターを中心に、地域や年齢に偏りができないよう幅広く選定をした。

#### 2)ミーティングの開催

集合型のミーティングを 2 回、オンラインミーティングを 1 回開催し、参加者の交流促進を図りつつ、構成員に参加負担の少ない開催方法とした。

## ●事業スケジュール

---

### ■事業スケジュール

講師陣の意見を聞き、前年までの講座の反省点を活かしてよりよい研修にするよう、カリキュラムの詳細を検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

4 月下旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
5 月 10 日	木育マイスター育成研修 受講生募集の広報開始
5 月 31 日	木育マイスター育成研修 応募締切・選定

6月上旬～6月下旬	【A日程】第1回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
7月上旬～8月下旬	【A日程】第2回講座及び【B日程】第1回講座関係団体・講師と打合せ、 第1回木育ミーティング参加者と日程調整及び会場の選定
7月2日-3日	木育マスター育成研修 【A日程】第1回目
7月4日～	A日程OJT開始（～9月2日まで）
9月上旬～10月下旬	【B日程】第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整 第2回木育ミーティング参加者と日程調整 木育マスターフォローアップ研修 関係団体・講師と打合せ
9月3日-4日	木育マスター育成研修 【A日程】第2回目
9月9日-10日	木育マスター育成研修 【B日程】第1回目
9月11日～	B日程OJT開始（～10月27日まで）
9月11日	第1回木育マスターミーティング開催
10月6日	木育マスターフォローアップ研修 受講生募集開始
10月24日	木育マスターフォローアップ研修 応募締切
10月25日	第1回木育マスターミーティング議事録 北海道へ提出
10月26日	第1回木育マスターミーティング議事録 各構成員へ送付
10月28日-29日	木育マスター育成研修 【B日程】第2回目
11月9日	第2回木育マスターミーティング開催
11月11日-12日	木育マスターフォローアップ研修実施
1月30日	第2回木育マスターミーティング議事録 北海道へ提出

1月31日 第2回木育マイスターミーティング議事録 各構成員へ送付

2月7日 第3回木育マイスターミーティング開催

3月13日 第3回木育マイスターミーティング議事録 北海道へ提出

3月13日 第3回木育ミーティング議事録 各構成員へ送付

## ●プログラムの作成

### ■プログラム作成

木育マイスター育成研修については、テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間で学ぶ研修の他に、OJTを一回以上受講することを木育マイスター認定の条件としている。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

木育マイスターフォローアップ研修については、北海道と当法人で打ち合わせを重ねながら事業の枠組みを作成した。育成研修及びフォローアップ研修ともに関係各所との打ち合わせを綿密に行い、プログラムを作成した。

木育マイスターミーティングについては、北海道と当法人で打ち合わせを重ね、構成員からの課題や要望を取りまとめ、ミーティングの中で課題の共有と解決に向けた話し合いができるよう計画をした。

### ■研修日程の設定

今年度から研修回数が2日間×4回となり、OJT研修の受講日程の確保などを考慮し、A日程は7月初旬と9月初旬、B日程は9月初旬と10月下旬に研修を行うこととし、日程を設定した。A日程においては、平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。また、B日程においては北海道立北の森づくり専門学院の学生も参加しやすいよう土曜・日曜の研修とした。

【A日程】

◆第1回目 2023/7/2（日）～2023/7/3（月）

【7/2】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:30	5章	体験学習法の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	イコロの森
11:30～ 12:30		昼食・休憩				
12:30～ 15:30	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育の理念	2.5H	
15:30～ 17:45	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の特性と過 程、人を癒す木の働き	2.0H	



【7/3】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 10:00	2章	木にふれ、木に学ぶ	上田 融	林業体験—育林作業	1.0H	イコロの森
10:30～ 13:00	2章	木にふれ、木に学ぶ	宮本 英樹	北海道の主な樹種 森林の定義 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2.0H	北大研究 林(苫小 牧)
13:00～ 14:20		昼食・休憩・移動				イコロの森
14:20～ 16:50	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	(株)ヨシダ 丹治林業	林業・木材産業の今	2.5H	各工場
17:00～ 18:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	上田 融	森林ボランティア、 レクリエーションの今	1.0H	イコロの森

◆第2回目 2023/9/3(日)～2023/9/4(月)

【9/3】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:45～ 12:00	5章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2.0 H	北大研究林 (苫小牧)
12:00～ 13:00		昼食・休憩・移動				イコロの森
13:00～ 14:00	5章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	1.0 H	
14:15～ 15:15	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎	1.0 H	
15:15～ 16:30	2章	木にふれ、木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—育林作業	1.0 H	
16:45～ 17:30	2章	木にふれ、木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—林産加工	1.0 H	

## 【9/4】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:15	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.0H	イコロの森
11:15～ 12:15		木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業林作業の今	1.0H	
12:15～ 13:15		昼食・休憩				
13:30～ 17:30	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの 基礎、模擬演習	3.5H	

## 【B日程】

◆第1回目 2023/9/9(土)～2023/9/10(日)

## 【9/9】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:30	5章	体験学習法の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	北の 森づくり 専門学院
11:30～ 12:30		昼食・休憩				
12:30～ 15:00	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育の理念	2.5H	
15:00～ 17:30	4章	木と生きる ～暮らしと産業～	(株)齊藤 工業所 木と暮らしの 工房	林業・木材産業の今	2.5H	各工場

## 【9/10】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 12:00	2章	木にふれ、 木に学ぶ	宮本 英樹	北海道の主な樹種 森林の定義 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2.0H	キトウシ 森林公園
12:00～ 13:00		昼食・休憩				
13:00～ 15:00	5章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2.0H	
15:10～ 17:10	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の特性と過 程、人を癒す木の働き	2.0H	



【10/28】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:00	2章	木にふれ、 木に学ぶ	上田 融	林業体験—育林作業	1.0H	沼田町 幌新の森
11:15～ 12:15		木にふれ、 木に学ぶ	煙山 泰子	林業体験—林産加工	1.0H	
12:15～ 13:15		昼食・休憩				
13:15～ 14:15	2章	木にふれ、 木に学ぶ	煙山 泰子	林業体験—林産加工	1.0H	
14:30～ 15:30	5章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	伝える技術	1.0H	
15:45～ 16:30	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎	1.0H	
16:45～ 17:45	2章	木と生きる ～暮らしと産業～	そらち自然学校 笠田 大介	森林ボランティア、レク リエーションの今	1.0H	

【10/29】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:30～ 11:45	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.0H	沼田町 幌新の森
11:45～ 12:45		昼食				
12:45～ 13:45	2章	木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業林産業の今	1.0H	
13:45～ 17:30	6章	木育はつながりの キーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの 基礎、模擬演習	1.0H	

◆フォローアップ研修 2023/11/11(土)～2023/11/12(日)

【11/11】

時間	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
12:30～ 12:50	開会式・オリエンテーション				アイヌ文化 博物館
12:50～ 13:30	フィールドワーク	山本学芸員	アイヌの生活文化を知る	40分	
13:30～ 15:00	ワークショップ	高野 繁廣	アイヌ文様の 木彫コースター制作	1.5H	二風谷 工芸館
15:30～ 17:00	ゲストスピーカーによる講演	高野 繁廣	木育ひとものがたり	1.0H	イオル文 化交流セ ンター

【11/12】

時間	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 12:00	ガイドウォーク	三木 昇	アイヌの生活に関する木 の紹介と説明	3.0H	アベツ 国有林
12:30～ 13:30	昼食・休憩				
13:30～ 15:30	木育ミーティング	宮本 英樹	課題の抽出と共有	2.0H	イオル文 化交流セ ンター
15:30～ 16:30	参加者交流会と個別相談	宮本 英樹		1.0H	

## ■現地情報の収集

現地情報の収集は弊社のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、木育マイスターに協力してもらい行った。

木育マイスター育成研修のA日程の研修においてはNPO法人いぶり自然学校や北海道大学苫小牧研究林にご協力いただき、また、B日程の研修においては、北海道立北の森づくり専門学院やNPO法人そらち自然学校にご協力をいただき、研修会場や周辺の森の下見、研修内容についての打合せを行った。

木育マイスターフォローアップ研修の会場においては、平取町、現地関係者、木育マイスター等に協力いただき、研修会場や周辺の森について情報を共有し、研修内容についての打合せを行い、研修内容を決定した。

情報収集の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

## ■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道と弊社のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、北海道森林活用課のメールマガジン「わくわく木育通信」などで情報提供を行った。

木育マイスター育成研修については、平成29年度から、応募の際に「研修の受講目的及び自身の得意分野」についてのレポートの提出を実施しており、令和5年度も引き続き実施した。定員30名に対して合計92名の応募があったことから、急遽若干名の定員を増やし、抽選により受講生を決定した。

木育マイスターフォローアップ研修については、定員30名に対して11名の応募であったため応募者全員を受講生として決定した。

## ●木育マイスター育成研修の実施

### 【A日程】

#### ■第1回目 令和5年7月2日-7月3日

◆1日目 (7/2) 苫小牧市 イコロの森 受講者数：24名

9:30 開会式

10:00 体験学習の理解

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

体験を通して概念を理解する、「体験学習」の教育手法を学ぶため、受講生たちは実際に体験学習のアクティビティを体験し、アイスブレイクの大切さ、人にものごとを伝えるための手法を学んだ。

アイスブレイクは導入において重要な役割を持つ時間となるため、参加者の雰囲気や天候なども考慮しながら、プログラム進行者にとって進めやすい環境を整える目的もあることなどの解説があった。



11:30 昼食 休憩

12:30 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

受講生たちは木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げ



た。また、様々な木育事例やプログラムの実例が紹介され、受講生たちは木育の幅広さを認識していた。

最後に、木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさしにくさなどを体感した。

#### 15:30 木と生きる～人の成長と木の関係～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の3つが大事だが、都市化社会ではその3つの歯車がかみ合っておらず、歯車がかみ合う、多様な自然の中で育つことの大切さについての講話があった。そのような活動の一つとして森のようちえんが紹介され、その特徴と効果の解説があった。



18:00 終了

### ◆2日目 (7/3) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：24名

#### 9:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 上田 融)

研修2回目に実施する林産加工の講義で使用するためのシラカバをチェーンソーで伐採する実習を行った。

鋸の使い方や樹木への切込みの入れ方、倒木の方向に注意することなどの安全指導が行われ、受講生は実際に伐倒することで、より理解を深めていた。伐採した木が馬搬にて運ばれ、1本の立木を製材し、板になる工程の見学を行った。



#### 10:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

北大研究林で樹木を観察する実習。移動中のバス車内では、「樹木図鑑」を使用し、北海道の樹種の特徴についての解説があった。

研究林では、北海道の主要な樹木10種を見つけるフィールドワークを実施しながら、実際に樹皮や葉に触れることで肌触りや匂いなどの違いを体感していた。また、水辺を好む樹、日向や日陰を好む樹など、どんな場所に自生しているのか木々の特性を学んでいた。





12:30 移動 昼食 休憩

13:45 木と生きる～暮らしと産業～

(株式会社 ヨシダ)

(株)ヨシダの取組や現在の木材市場について説明をいただき、製材工場へ移動した。工場では、原木の選木から皮剥ぎ、製材されるまで全てオートメーション化され、コンピューターで管理されている一連の過程について見学をした。大型機械が終始稼働している中でも、最後の点検は人間の目によって行われているなどの講話があった。



(丹治林業株式会社)

1本の木の全てをチップへと加工し、無駄にすることなく使用しているというお話をいただいた。用途が異なるため、針葉樹と広葉樹では、機械を使い分け、また、廃材になるような端木やバークにおいても細粉しチップとして利用価値を高めているとご説明いただいた。また、最近では薪の需要が増えてきていることなどの説明もあった。



17:00 木と生きる

～森林ボランティア、レクリエーションの今～

(NPO 法人いぶり自然学校 上田 融)

上田氏が和みの森、イコロの森を活用しながらどのように森林サービス業の活性化やボランティアを増やしていったのかを失敗談を交えながらお話しいただいた。

最初は「参加者」として参加していた地域住民も、活動に共感をもってもらう事で「参画者」として加わってもらえるようになった事など、今後のマイスターが活動を行う上で参考となる話題であった。



## ■第2回目 令和5年9月3日-9月4日

◆1日目 (9/3) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：23名

#### 9:45 木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

プログラム立案の際に、趣旨を伝えるために必要な、流れや伝え方についてのアクティビティを実際に体験しながら学習した。

受講者は課題のアクティビティが何を目的として提供されているのか、全体プログラムの流れはどのように考えられているかなど、プログラムを効果的に伝えるために必要なスキル等について学んだ。



#### 12:00 移動 昼食 休憩

#### 13:00 木育プログラムの伝え方

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

受講生一人一人の OJT の体験を全員で共有し、今後木育マイスターとしてイベントを企画運営する際に共通する重要なキーワードを、受講生から提出された OJT 振り返りシートからピックアップして講義を進めた。

「何故、そう感じたのか」「どんな点に共感したのか」などの質問をしながら、他の受講生にも理解できるように、キーワードを掘り下げて講義を進めた。



#### 14:15 木育プログラムの伝え方

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

トランプやフラフープなどの道具を用いてノンバーバルコミュニケーションの難しさを体感するゲームを行った。プログラムの中で共通の課題を成功させるには、全体に指示を出すのではなく、個々に言葉をかけることが大切であることなどを学んでいた。それらのゲームを通じて、参加者同士のコミュニケーションが深まり、その結果、参加者それぞれの個性を引き出すきっかけ作りになることを学んだ。



#### 15:30 木とふれあい、木に学ぶ

(KEM 工房 煙山 泰子、合同会社 machi cen 上田 融)

研修第 1 回目で伐倒して製材したシラカバを用いてカッティングボードの制作を行った。はじめに制作の手順と道具の説明をし、必要な工程を講師が見本を見



せたのち、実習に移った。

製材したシラカバの板を、受講生の好みに合わせてカットし、削り馬を使って形を整え、穴をあけ、紙やすりで磨き、最後にえごま油を塗り、完成させる工程であった。時間内に全ての作業(説明⇒制作⇒後片付け)を終えるための時間配分を考慮したり、協力したりして作業を行っていた。



## ◆2日目(9/4) 苫小牧市 イコロの森 受講者数: 24名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどのような存在かについて講話があり、受講生は、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識していた。

次に木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があり、それから木材製品の歴史や特徴について理解するため、木の道具や木の文化、習慣などの歴史的背景についてスライドにより講義を受けた。

古来から樹種の特徴による適材適所を考えながら人と木が共存してきた経緯を受講生は学んでいた。



11:15 木と生きる～林産業の今～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

森で余暇を楽しむためのコンテンツとしてのテントサウナや森の執事(ネイチャーバトラー)の存在についてなどの説明があった。また、「森の暮らし」、「農園の暮らし」、「牧場の暮らし」を展開している大沼流山牧場での活動内容の説明もあり、木育と暮らし・産業の関連性について学習した。

受講生は、森林の活用方法として「空間利用」や「里山的利用」など、時勢に合わせた発想と着眼点が必要であることを学んでいた。



12:20 昼食 休憩



### 13:15 木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

木育プログラム、企画を組み立てる際に重要なコンセプト(主旨、ねらい)づくりについての講義であった。

自分の思いを形にして伝えるためにはマーケット分析が大切なことや、企画・実施・評価を繰り返してフィードバックしていくことで、よりよいプログラムができていくことを受講生は学んでいた。

また、プログラムを実施する際の導入から本体、まとめの流れについて、人の興味を引き、飽きさせない手法についても教わった。



さらに、今までの講義で学んだ「体験活動」やプログラム作成に大切な「思い」「コンセプト」などの企画作りのアウトラインを活用して、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより4つのプログラムの企画・発表を行った。

最後に各自の「木育宣言」を発表し、全4日間の研修のまとめとした。



18:00 終了

## 【B日程】

### ■第1回目 令和5年9月9日-9月10日

◆1日目(9/9) 旭川市 北海道立北の森づくり専門学院他 受講者24名

9:30 開会式

10:00 体験学習の理解

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

学習の種類と時間軸についての講義を受けた。事柄の多様性を学ぶ横の時間軸と、事象の関係性を学ぶ縦の時間軸があるが、マイスター研修では関係性をより深く知るため、縦の時間軸で学習を進めていくと説明があった。

体験を通して概念を理解する「体験学習」の教育手法を学ぶため、受講生たちは実際に体験学習のアクティビ

